

海外の若年層参画プレイスメイキングにおける実施プロセスの特徴

Characteristics of Implementation Processes in Placemaking with Children and Youth Initiatives Abroad

○橋本瑛¹, 阿部真実¹, 児玉陽斗¹, 泉山墨威²

*Teru Hashimoto¹, Mami Abe¹, Haruto Kodama¹ and Rui Izumiyama²

Abstract: This study analyzes eight case studies from "Placemaking with Children and Youth" and identifies four distinct youth participation approaches: Design+Build, Participatory Action Research, Participatory Design, and Participatory Planning. Successful youth participation requires careful approach selection based on project objectives, contexts, and resources. This research enhances understanding of how different participatory approaches can effectively engage youth in creating inclusive urban environments.

1. 研究の背景及び目的

近年、公共空間の活用や運営の手法として、プレイスメイキングが国内外で注目されている^[1]。海外の動向として、1975年にプレイスメイキングの取り組みを推進しているニューヨークのNPO組織であるProject for Public Spaces (以下、PPS)が設立されて以降、多くの国や地域でプレイスメイキングの実践、研究が行われている。

しかし、米国では若年層がプレイスメイキングのプロセスに十分に参画できず、都市における若者の孤立化や、公共空間の治安悪化等の問題が生じている。こうした地域における若者を取り巻く社会的課題を解決するため、2015年にPPSは、若年層のコミュニティ参加の意義及びその実践的手法を整理した「Young people and Placemaking」を発行した^{注1)}。その後、多くの国や地域で実践、研究が行われており、2018年に発行された「Placemaking with Children and Youth」^[2]では、若年層が参画するプレイスメイキングの事例が体系的に整理される等、若年層が参画するプレイスメイキングは徐々に知見が蓄積されてきた。

一方で、国内では若年層が参画するプレイスメイキングの実践、研究の蓄積が少なく、海外と同様都市における若者の孤立化等の問題が起きていると考える。これらの課題を解決し、持続可能なコミュニティ形成を実現するためには、若年層の参画を促進する新たなアプローチの検討が不可欠である。

そこで本研究の目的は、海外のプレイスメイキングにおける具体的成果を整理し、若年層が参画するプレイスメイキングの実施プロセスの特徴を明らかにする。

1-2. 研究の方法及び研究対象

若年層^{注2)}が参画するプレイスメイキングの事例を体系的に示した「Placemaking with Children and Youth」に掲載された8つの事例を対象に、各プロジェクトに

おける具体的成果の形態の分類を行う。その上で、各プロジェクトにおける具体的成果を実現するための実施プロセスの特徴を整理し、それらの対応関係の分析を行う。

2. 若年層参画プレイスメイキングの実施プロセスの特徴

2-1. アウトプット形態の特徴

8事例の具体的成果を参照すると、大きく「物理」「非物理」の2種類に分類され、「非物理」はさらに「仕組み」「計画」「政策」の3種類の分類された(Table1)。

(1) 物理・構築物型 (2事例)

①Participatory Schoolyard Design と②Design-Build (La Perla)は、実際の空間改変や施設建設を行った。これらは具体的な成果物として、校庭の緑化や海岸沿いの階段・クラブハウスの建設を実現している。

(2) 非物理・仕組み型 (2事例)

③Child-Friendly Hospital と④Safe Communities は、継続的に実施可能な活動の仕組みやモデルを構築した。前者は病院における子どもへの配慮プログラム、後者は地域の安全性向上を目的とした仕組みとして、他の地域でも応用可能な形で展開されている。

(3) 非物理・計画 (2事例)

⑤Child-Friendly Neighborhood と⑥Move Around and Play は、将来の実現を前提とした具体的な空間デザインや計画案を、若年層の意見を踏まえ作成した。作成された空間デザインや計画案は、エリアのビジョンとして機能している。

Table1. アウトプットの形態と特徴

アウトプット	特徴	事例	具体的成果
物理 構築物	空間改変・施設建設	①Participatory Schoolyard Design (カナダ) ②Design-Build (フェルトリコ)	校庭緑化/遊具設置 階段建設/クラブハウス
非物理 仕組み	継続的な活動の仕組み	③Child-Friendly Hospital (南アフリカ) ④Safe Communities (インド)	病院プログラム/研修システム 安全性向上/実践モデル
非物理 計画	実現を前提とした将来への提案	⑤Child-Friendly Neighborhood (オーストラリア) ⑥Move Around and Play (オランダ)	住宅地計画案 遊び場ネットワーク提案
非物理 政策	行政的枠組みへの反映	⑦Great Neighborhoods (アメリカ) ⑧Open Space Planning (アメリカ)	住宅戦略への提案 公園管理計画

(4) 非物理・政策（2事例）

⑦Great Neighborhoods と⑧Open Space Planning は、行政の政策や計画に反映される提言や指針を作成した。住宅戦略や公園管理計画等の公式文書に若年層の意見が組み込まれる形となっている。

2-2. アウトプット形態による実施プロセスの特徴

各アウトプット形態は、それを実現するために特定の実施プロセスを示す (Figure1)。

物理・構築物型は、調査を経て設計・施工という不可逆的なプロセスを経ることが確認できた。専門的技術と建設資金が必要なため、建築家やデザイナーといった専門家主導の垂直的な組織構造となり、若年層の参画は設計段階での意見収集や建設作業への部分的参加に限定される傾向がある。

非物理・仕組み型は、調査を踏まえた問題特定、評価、そして再調査という循環的なプロセスを繰り返すことが確認できた。NGO や地域組織による水平的なネットワーク構造により、若年層は調査主体として能動的に参加し、継続的なフィードバックを提供する役割を担う。

非物理・計画型は、反復的なワークショップを通じて提案を行う。民間事業者やコンサルタントが主導しつつも、若年層はデザインワークショップに積極的に参加し、自らのアイデアを具体化する機会を得る。

非物理・政策型は、評価・体験を踏まえて提案を行い、政策化という段階的プロセスを経る。複数の行政部門が統合的に関与し、議会や委員会の承認を得る必要があるため、若年層の参画は公式な協議への参加や意見聴取という形式的な側面が強くなる。

以上より、アウトプット形態は、若年層参画の特徴に大きく関係することが明らかとなった。物理・構築物型を目指す場合、専門性の壁により若年層の関与は限定的になるが、完成時の達成感や満足度は高いと考える。一方、非物理型では、継続的な学習機会が提供される反面、成果の可視化が困難という課題があると考える。

3. 結論

本研究により、若年層の参画するプレイスメイキングにおける実施プロセスの特徴について以下のことが明らかとなった。

- ①アウトプット形態が物理型の場合、不可逆的な実施プロセスで行うことで、若年層の参画が部分的になるため、継続性の確保が難しいことが考えられる。
- ②アウトプット形態が非物理型の場合、循環的な実施サイクルを行うことで、反復的な活動を行える傾向があると考えられる。

今後の課題として、国内事例との比較分析および若年層の発達段階に応じた参画手法の最適化が挙げられる。

補注

- 注1) Project for Public Spaces (2015) 「Young people and Placemaking」
<https://www.pps.org/article/young-people-and-placemaking-engaging-youth-to-create-community-places>(最終閲覧日: 2025年9月22日)
- 注2) 本研究の若年層の定義は「5-18歳」と定義する。

参考文献

- [1] Project for Public Spaces 著 泉山壘威訳他「プレイスメイキング・ハンドブック: パブリックスペースを魅力的に変える方法」, 学芸出版社
- [2] Victoria Derr, Louise Chawla, Mara Mintzer(2018) 「Placemaking with Children and Youth」, New Village Press

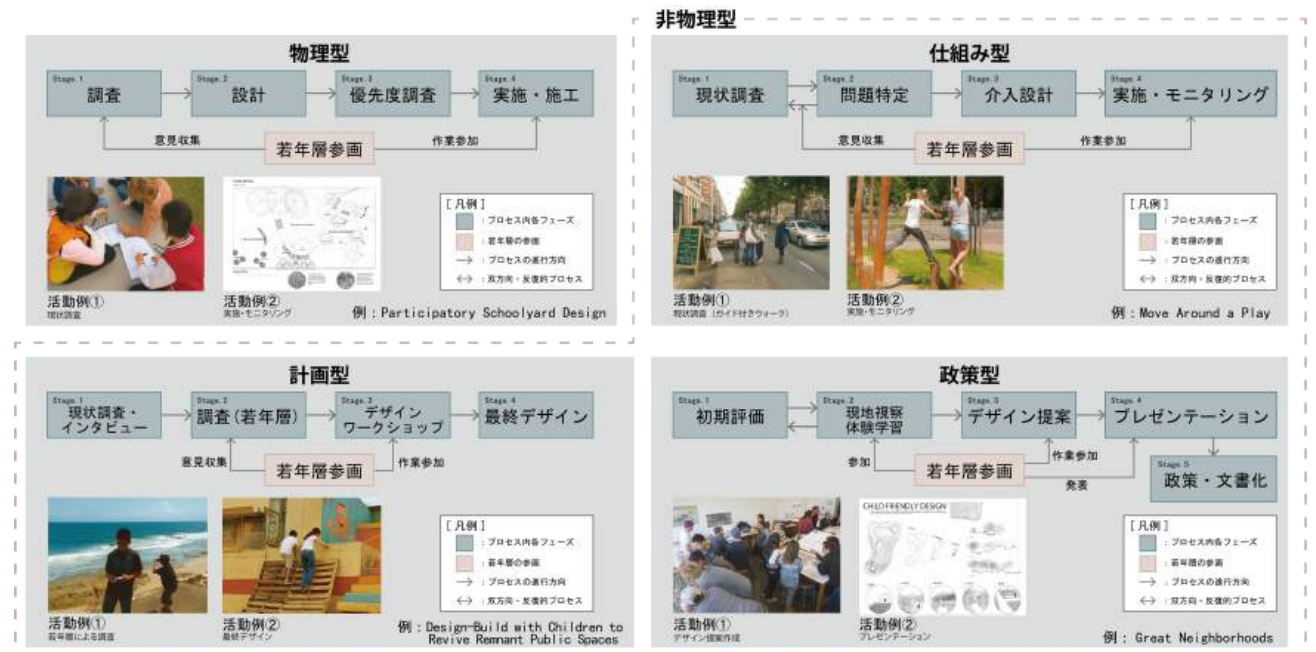


Figure1. アウトプット形態及び実施プロセス